



慶應義塾大学ビジネス・スクール

女性活躍推進と地域限定社員(A)

5

— 中川恵子の「憤り」 —

「なぜ『私が』東京で一ヶ月も研修を受けなければならないの？」

中川恵子は、最近ことあるたびに東京での研修や転勤を勧めてくる上司に嫌気がさしていた。

10

「ここが好きで地元に戻って就職したのに、なぜ？」

女性活躍推進の波

1. 一般職から営業へ

15

瀬戸内 S 市出身の中川恵子が大手保険会社 A 社に入社したのは、ミレニアムで世の中がざわめいた 2000 年のことである。中川は瀬戸内地方を気に入っており、大学も瀬戸内にある他県の国立大学に進学した。実家から 3 時間半と通いきれず、学生時代はずっと独り暮らしだった。卒業とともに地元に戻るため、S 市に支店を構える大手保険会社 A 社に一般職として就職した。採用が決まったときは、ほっとしたし嬉しかった。S 市支店の勤務で、転勤がないのも魅力だった。

20

入社後、中川は内勤の仕事についた。書類処理や業績の集計など、外回りの営業男性社員を支える役目である。入社してちょうど 10 年目。内勤の仕事がベテランの域に達する頃、上司から「営業に出てみないか？」と声をかけられた。

25

10 年も働いていれば、会社のことも社会のこともよく分かる年齢になっていた。内勤の仕事からは営業男性社員の善し悪しや、営業の大変さも見えていた。「自分にできるのだろうか？」営業となれば、

.....
このケースは実在する中川恵子（仮名）からの全面的な協力を得、彼女の経験を脚色して作成した。謝意を表す。ケースに登場する人物は全て仮名である。ケース作成者は高木晴夫、吉澤康代、鶴ヶ谷理子である。本ケースは無断複製を禁ずる。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 高木晴夫、吉澤康代、鶴ヶ谷理子（2019 年 7 月作成）